

令和7年11月26日

東部農林水産振興センター農業振興部

標 題	タマネギの省力的な育苗（ミスト散水管理）を試験的に行いました！！
------------	---

（ダイジェスト）

タマネギ栽培6年目のN法人は、令和8年産の栽培に向け、9月から自家育苗を開始しました。昨年までは女性メンバーを中心に手かん水で管理をしていましたが、昨今の猛暑や作業者の高齢化によりハウス内の長時間作業が体力的に厳しいことから、やむなくミスト散水の導入を決断したところです。そこで農業振興部は、県内での失敗事例を踏まえ、リスクと注意点を説明し、かん水ムラを減らす対策としてミスト散水と手かん水を組み合わせた方法を提案しました。結果、このかん水方法により、良質な苗を育成することができました。

N法人は、高温期におけるハウス内作業の短縮及び育苗の省力化を図るため、今年度新たにミスト散水を導入しました。

ミスト散水は県内でも導入事例がある一方、かん水ムラ等が原因で生育にばらつきが出やすいことから、法人に対しリスクがあることを十分に理解した上で導入するよう説明しました。

ミスト散水装置を設置後に散水試験を行い、かん水時間の目安を決めました。さらに、かん水ムラのある場所を特定し、ミスト散水と手かん水の組み合わせが不可欠であることを法人と共有しました。

育苗開始以降は頻繁に育苗ハウスに通い、かん水時間・量・かん水回数・コックのひねり具合等を法人の園芸リーダーと相談しながら、天候や生育を加味した管理を行いました。

また、含水量を把握するため、かん水前後のトレイの重さを量ること及びミスト散水後に見回りを行い、乾いているところは手かん水で補ってもらうことを重点的に指導しました。

さらに、当番制で作業を行う女性メンバーに対し、その日の作業を確実に伝達するため、「タマネギ掲示板」を作成し、育苗ハウス内に設置しました。

その結果、一部でかん水ムラによる生育差がありましたが、昨年より良質な苗ができました。構成員からは「ハウス滞在時間が短くなったことで身体の負担が軽減した」、「この方法なら苗数が増えても継続できる」との声が聞かれました。

規模拡大を進めるためには省力化が大きなポイントであることから、農業振興部では、今年度の課題を整理し、さらなる良質生産に向けた方法を検討していきます。

